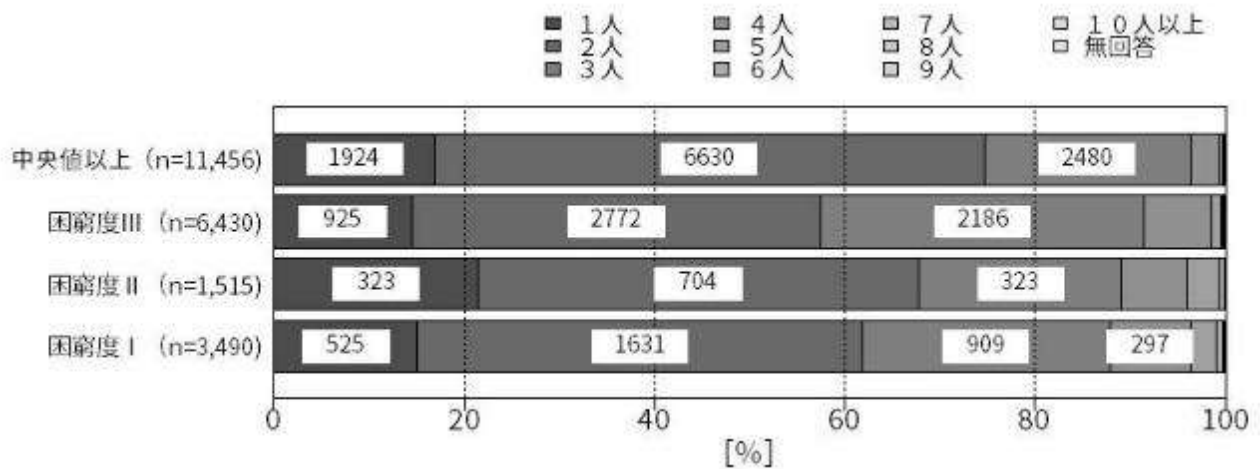


困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票 問3(1)③）

<大阪市24区>



<大阪市生野区>

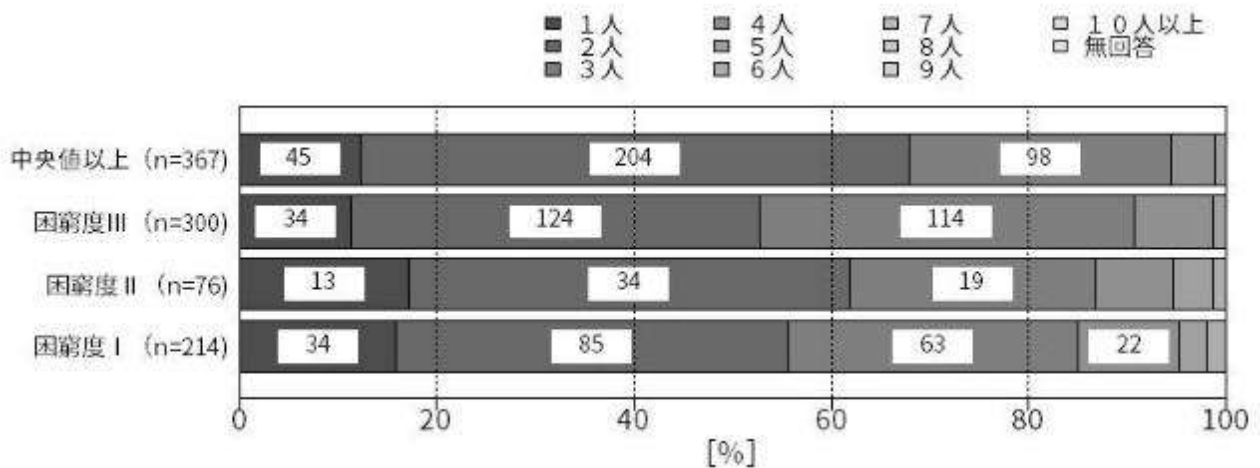
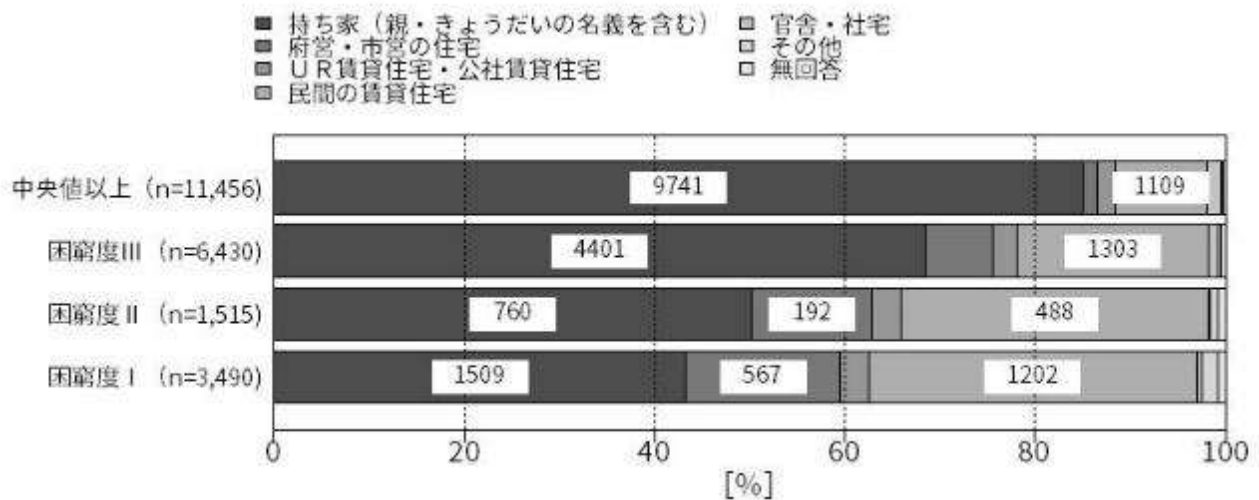


図 118. 困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において3人以上が32.2%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では、44.4%であった。

困窮度別に見た、住居（保護者票 問 4）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

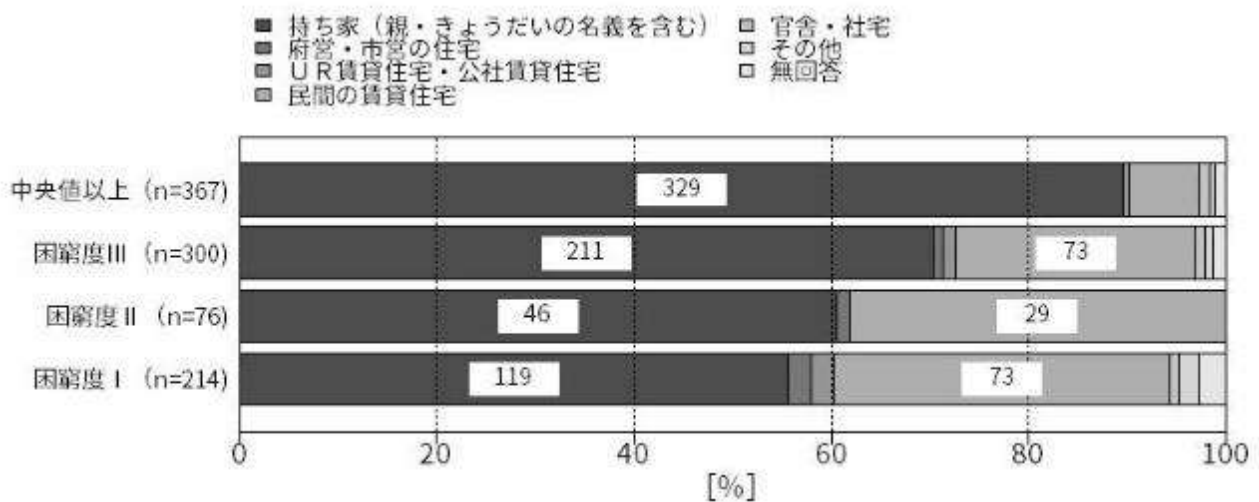
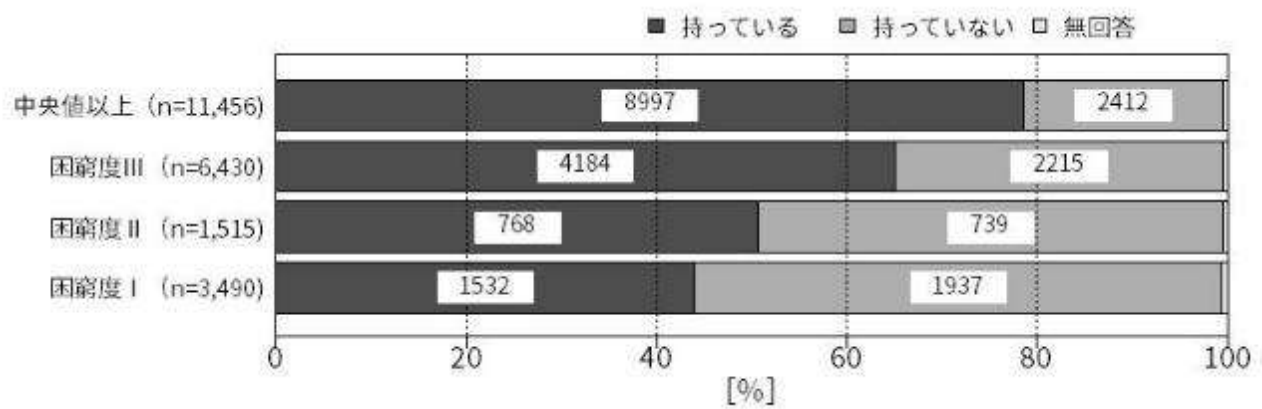


図 119. 困窮度別に見た、住居

困窮度別に住居を見ると、中央値以上群では、「持ち家」と回答した割合は 89.6%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では、55.6%であった。

困窮度別に見た、自家用車の所有（保護者票 問5）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

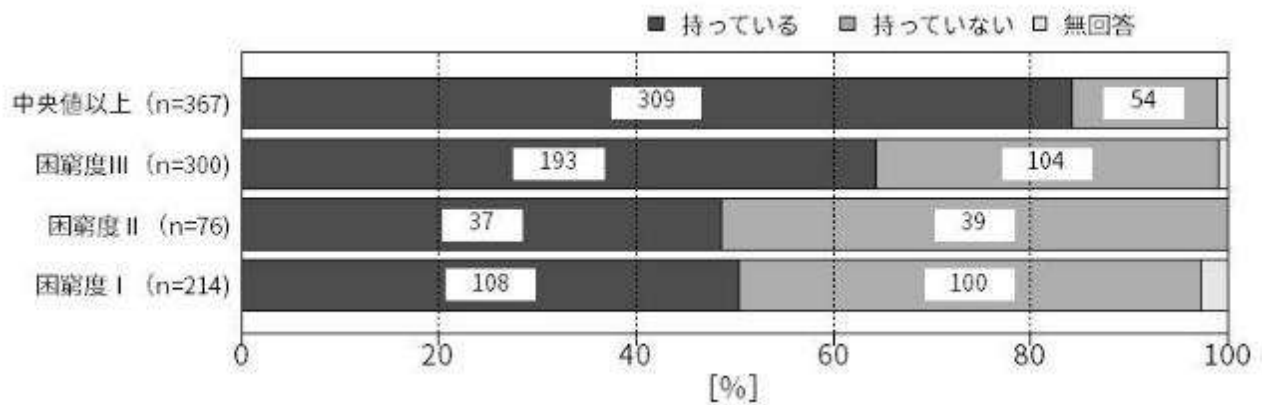
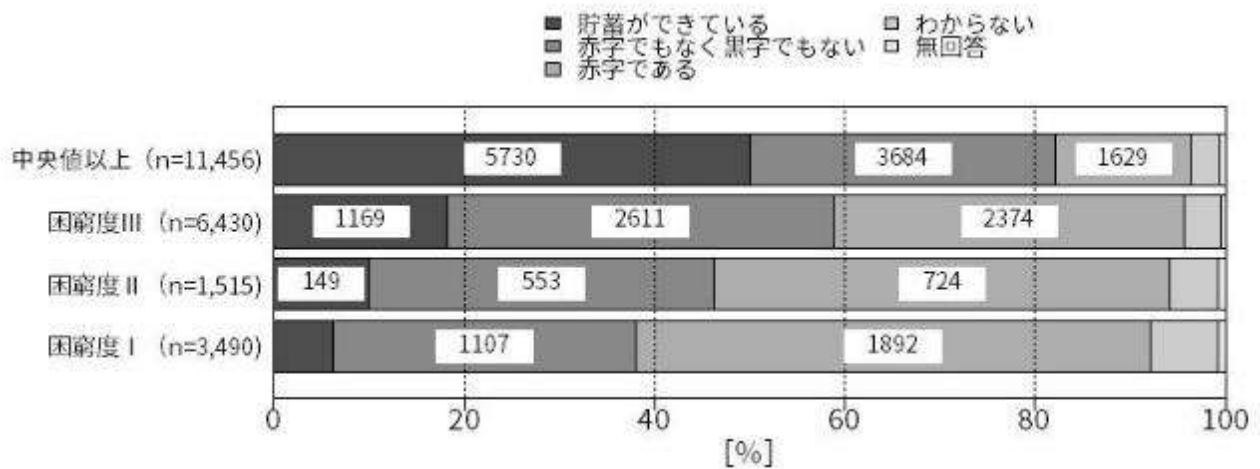


図 120. 困窮度別に見た、自家用車の所有

困窮度別に自家用車の所有を見ると、中央値以上群では、車を所有している世帯が 84.2%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では 50.5%であった。

困窮度別に見た、家計状況（保護者票 問6(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

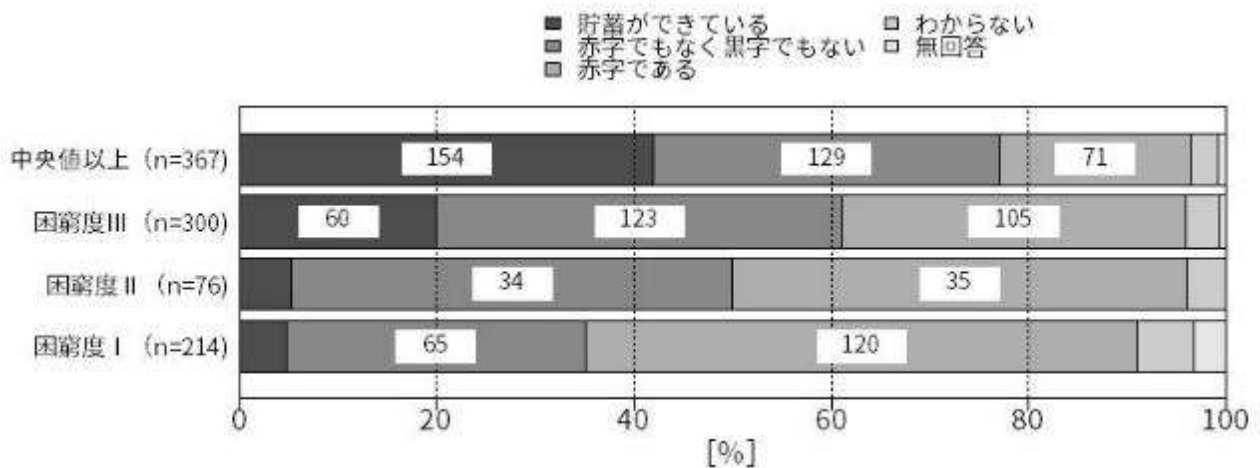
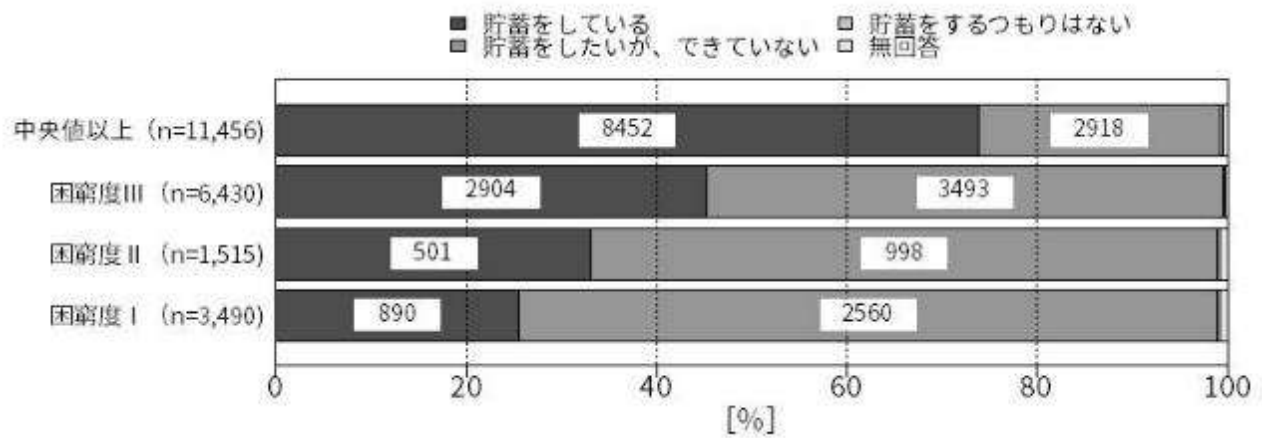


図 121. 困窮度別に見た、家計状況

困窮度別に見た家計の状況を見ると、中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、19.3%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では、56.1%であった。

困窮度別に見た、子どものための貯蓄（保護者票 問 6(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

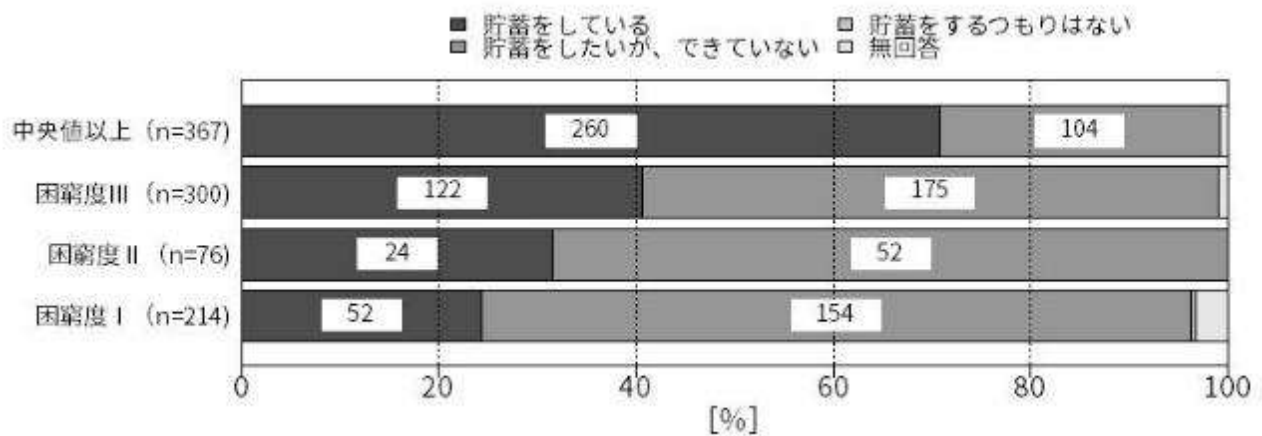
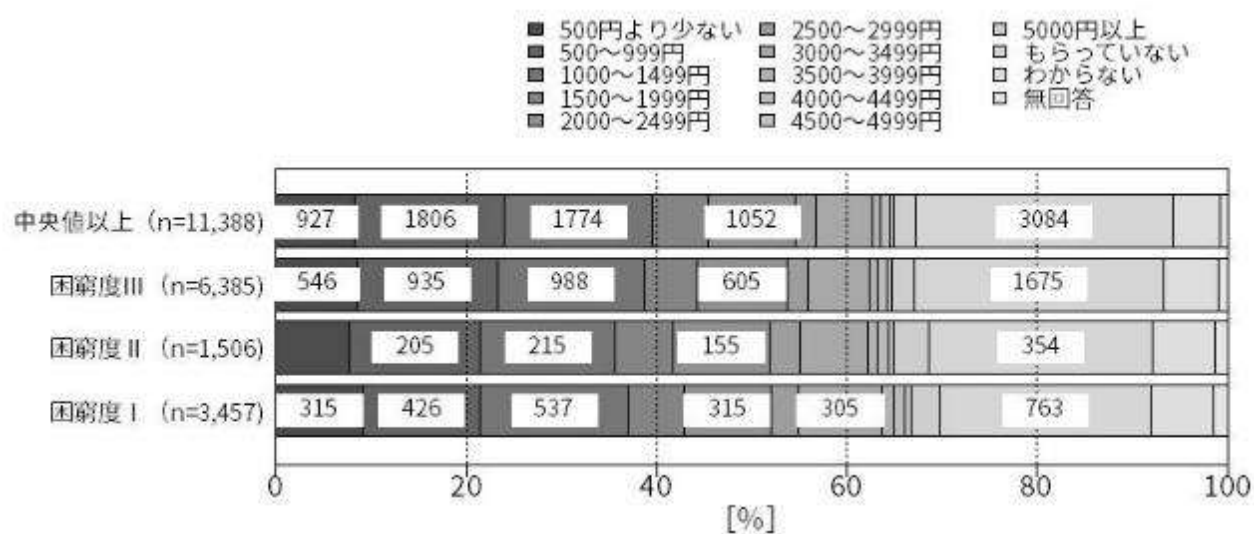


図 122. 困窮度別に見た、子どものための貯蓄

困窮度別に子どものための貯蓄を見ると、中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が 70.8%であったが、困窮度Ⅰ群では 24.3%であり、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答する割合が 72.0%であった。

困窮度別に見た、おこづかいの金額分布（子ども票 問 20(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

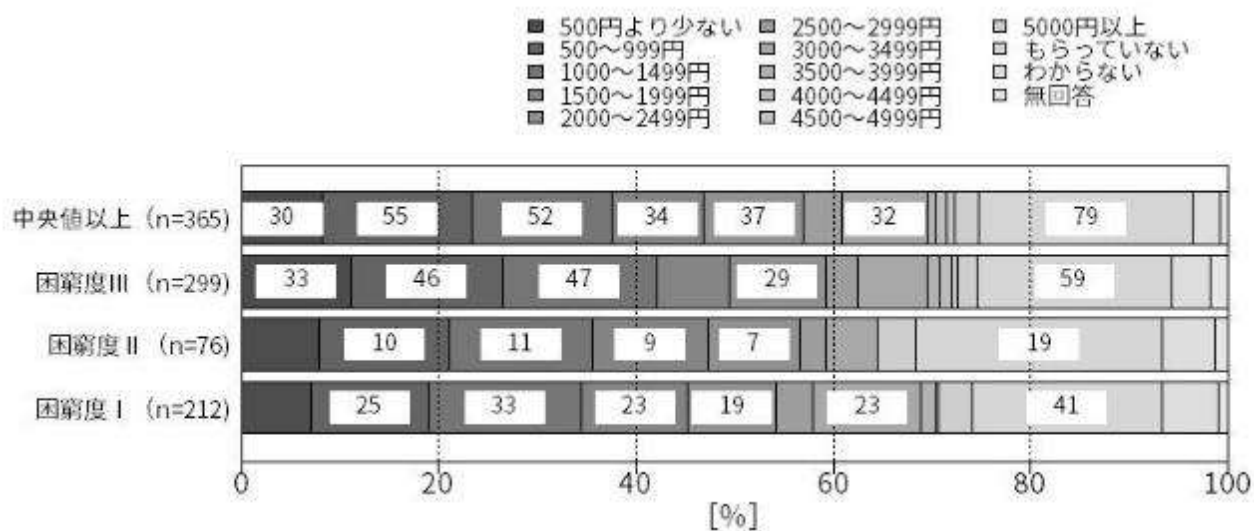
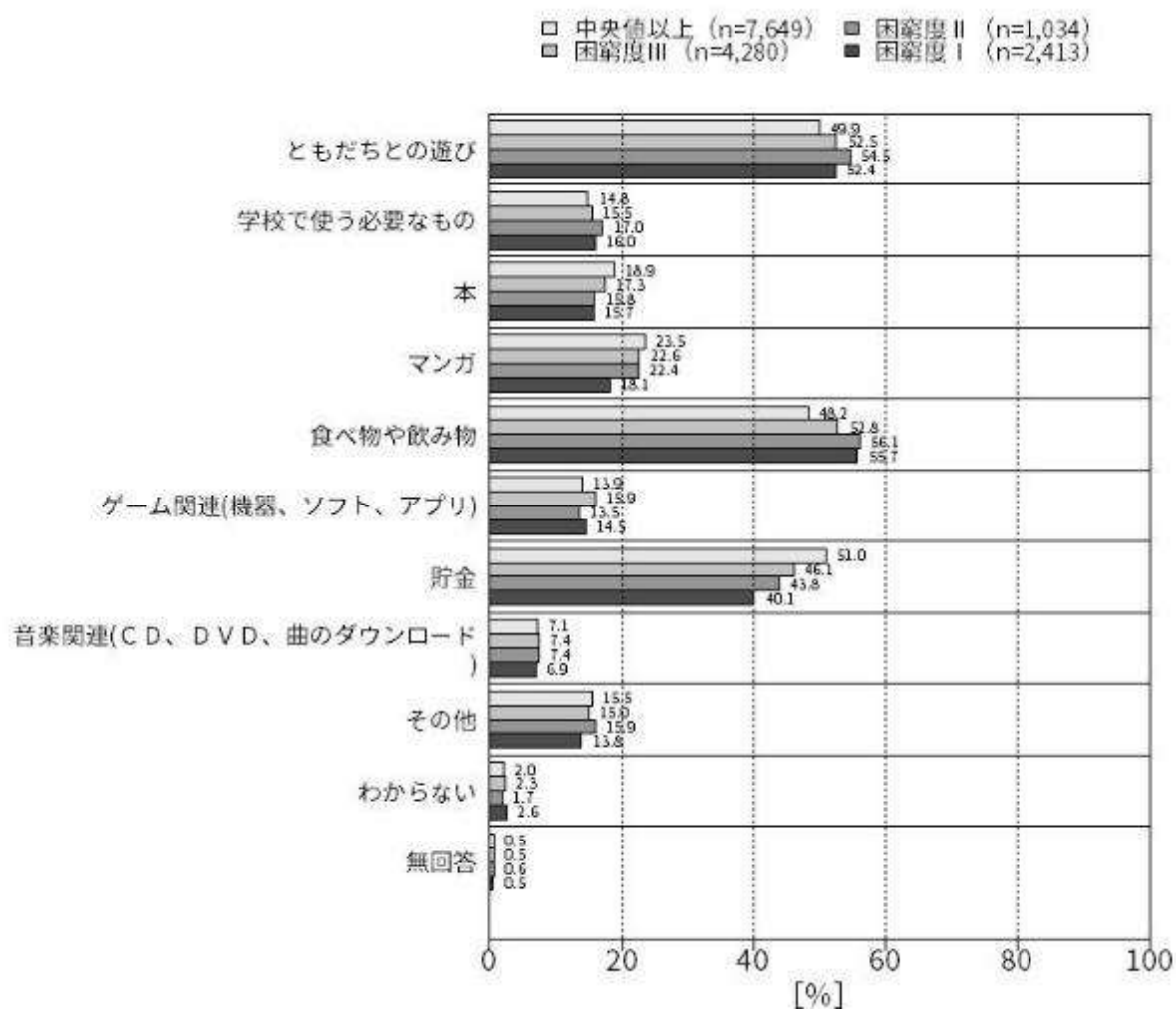


図 123. 困窮度別に見た、おこづかいの金額分布

困窮度別におこづかいの金額分布を見ると、中央値以上群・困窮度Ⅲ群では「500 円より少ない」「500～999 円」という回答がやや多い。おこづかいをもらっているが、その用途や必要な物は親に購入してもらっているか、など詳細をみる必要がある。

困窮度別に見た、おこづかいの使い方（子ども票 問 20(3)）

<大阪市 24 区>



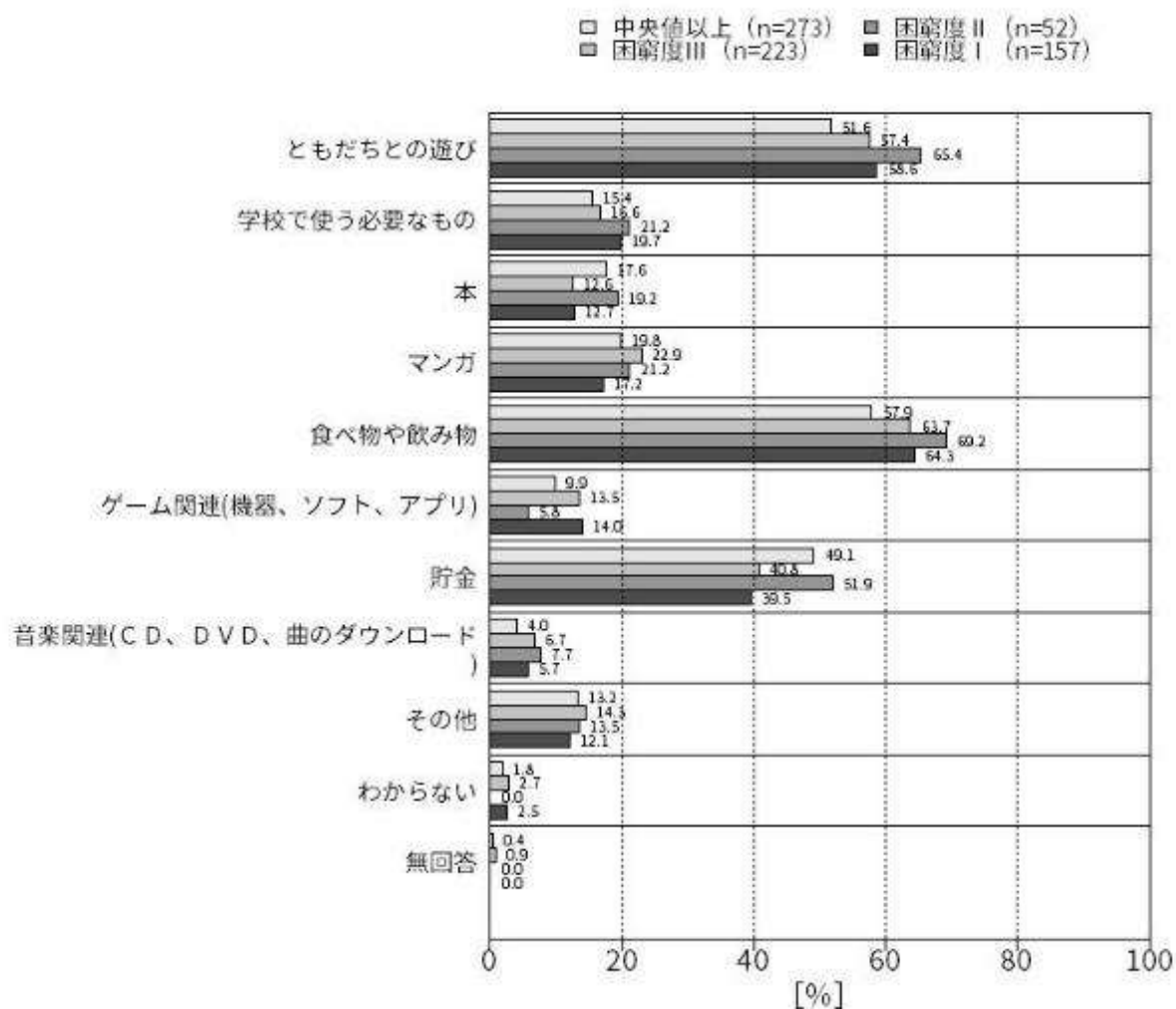


図 124. 困窮度別に見た、おこづかいの使い方

困窮度別におこづかいの使い方を見ると、「貯金」が中央値以上群 49.1%であったのに対して、困窮度Ⅱ群では 51.9%、困窮度Ⅰ群では 39.5%であった。

＜経済状況に関する考察＞

困窮度が深刻化すればするほど、生活面での困難は増す傾向が見られた。困窮度Ⅰの群において「電気・ガス・水道などが止められた」世帯は9.3%、「敷金・保証金等を用意できないので、住み替え・転居を断念した」世帯は12.1%であった。しかし、中央値以上の群では、ともに1%未満の世帯のみにとどまっており、生活面での格差を確認することができる。そのほかにも、中央値以上の群が2%未満であるのに対して、困窮度Ⅰの群の割合が高かった項目として、「医療機関を受診できなかった」5.1%、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」10.7%、「電話などの通信料の支払いが滞ったことがある」15.4%などが挙げられる。

「どれにもあてはまらない」という回答は、中央値以上の群では34.3%であった一方で、困窮度Ⅰの群では4.7%であった。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響している。「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」という回答は、中央値以上の群が9.8%であったのに、困窮度Ⅰの群では40.2%となっている。

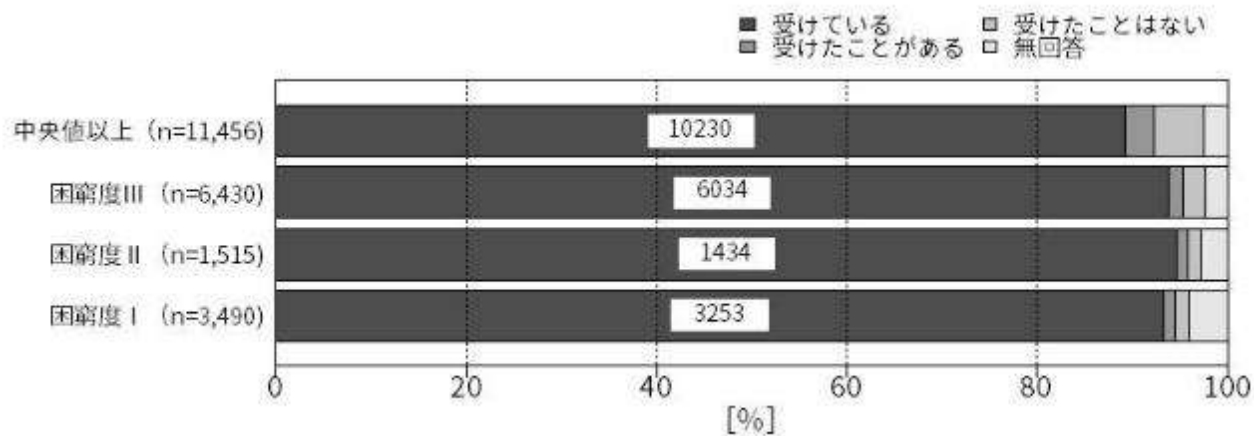
世帯の経済状況は、子どもの生活にも影響を与えていることが確認できる。たとえば、困窮度Ⅰの群では、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」という回答が2.8%であったのに対して、中央値以上では0.8%にとどまった。「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」世帯は、中央値以上の群では5.2%であったのに対し、困窮度Ⅰの群では24.8%であった。子どもを取り巻く状況の格差が示されていると言える。

調査では、世帯所得の差が学習面での機会の差となって現れることが示されている。「子どもを習い事に通わすことができなかった」が、中央値以上の群で6.0%に対して困窮度Ⅰの群では23.8%、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」が中央値以上の群で6.5%に対して、困窮度Ⅰの群では19.2%と、顕著な差が見られている。学習機会の格差は、子どもの将来に影響を与えることが予想される。このほか、学校外での子どもの多様な「体験」の有無も、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験に格差があることが示された。たとえば、「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」という回答は、中央値以上の群で12.8%に対して、困窮度Ⅰの群では39.3%であった。その一方、「どれにも当てはまらない」が、中央値以上の群では65.4%に達している。子どもに対して困難なく資源や機会が提供できている世帯も多数いるという点にも留意する必要があるだろう。

(2) 家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、児童手当（保護者票 問 30(3)①)

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

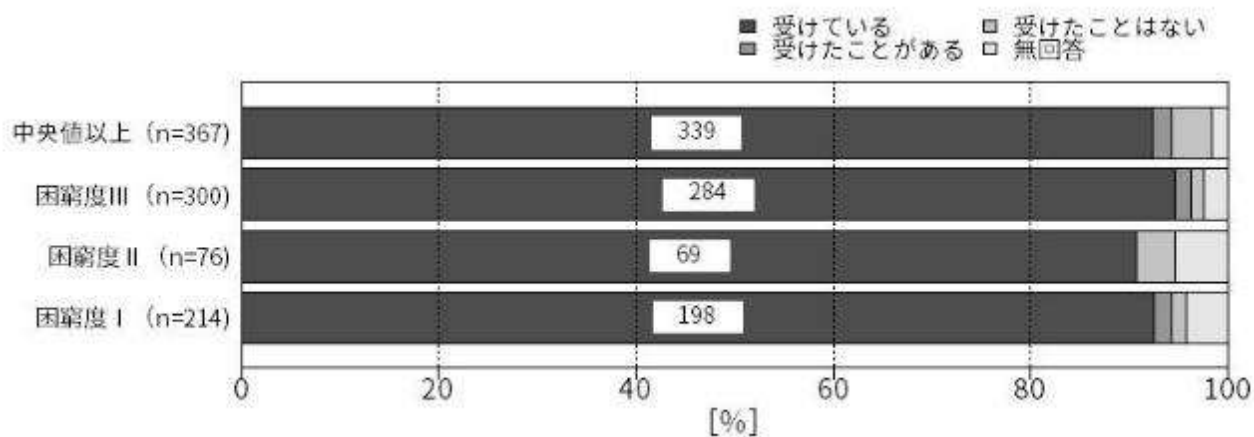
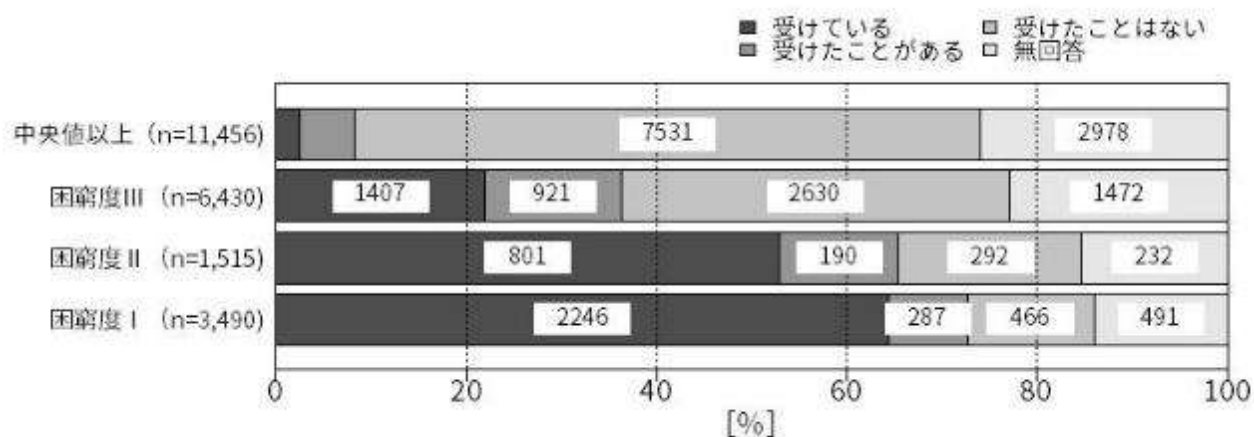


図 125. 困窮度別に見た、児童手当

児童手当は多くの世帯が受給していた。困窮度別に児童手当の受給率を見ると、いずれも 90%以上の世帯が「受けている」に回答した。

困窮度別に見た、就学援助費（保護者票 問 30(3)②）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

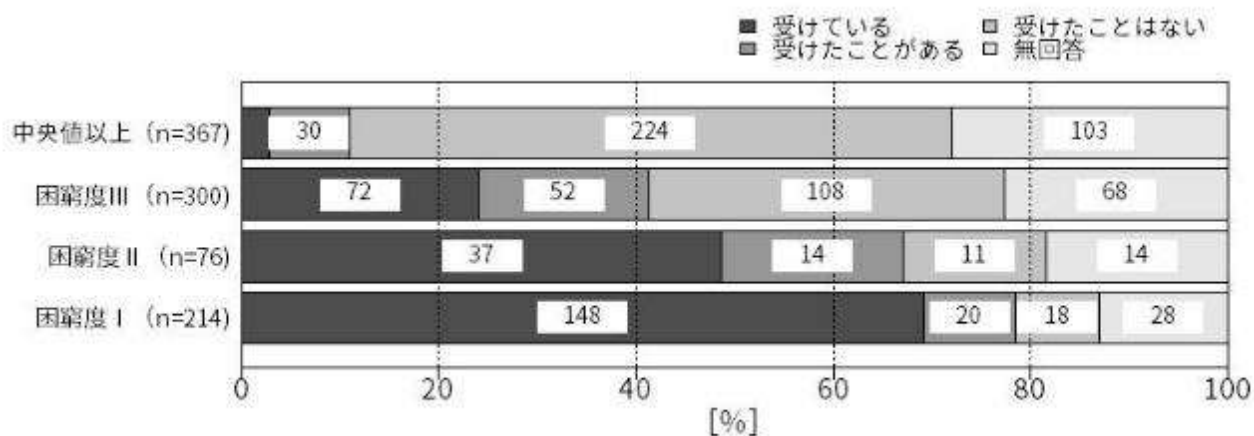
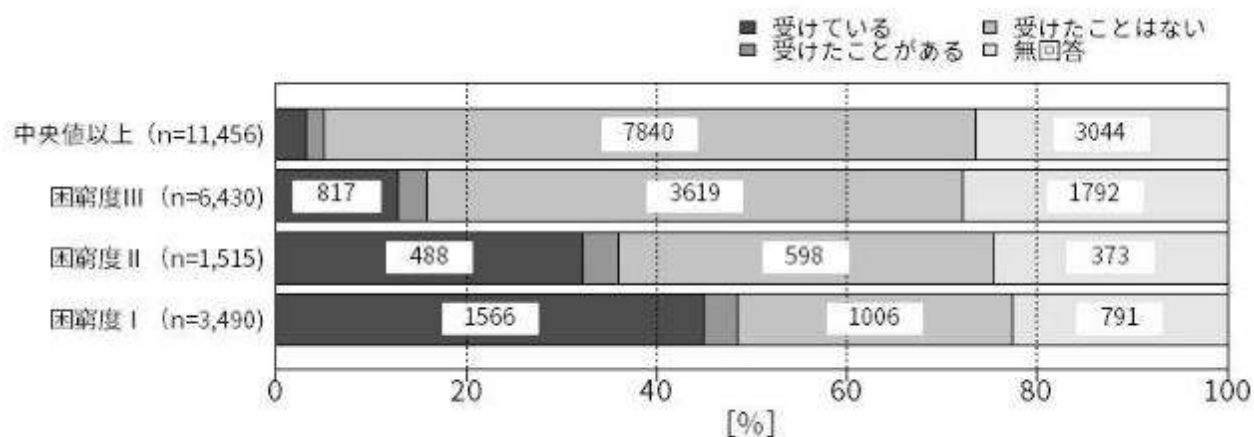


図 126. 困窮度別に見た、就学援助費

困窮度別に就学援助費の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当（保護者票 問 30(3)③）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

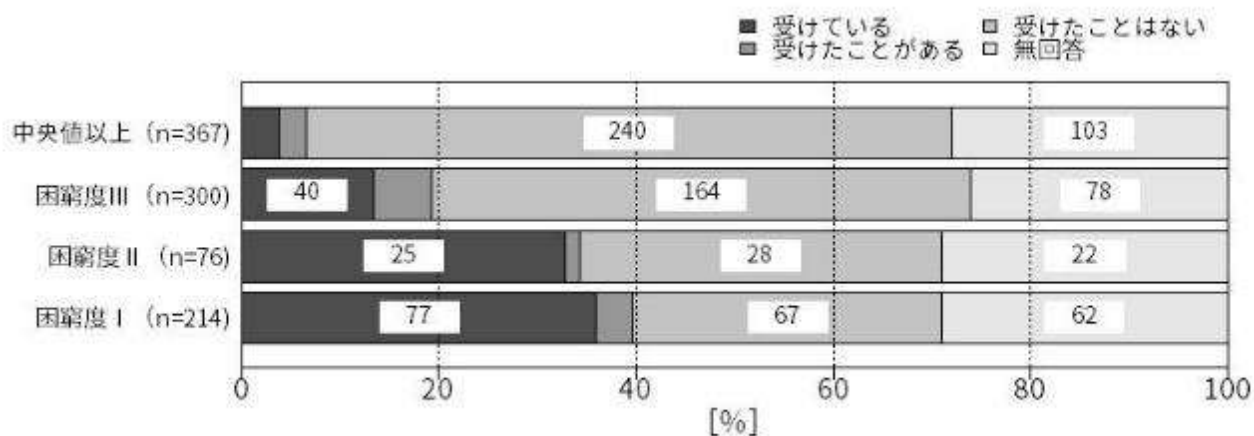


図 127. 困窮度別に見た、児童扶養手当

困窮度別に児童扶養手当の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

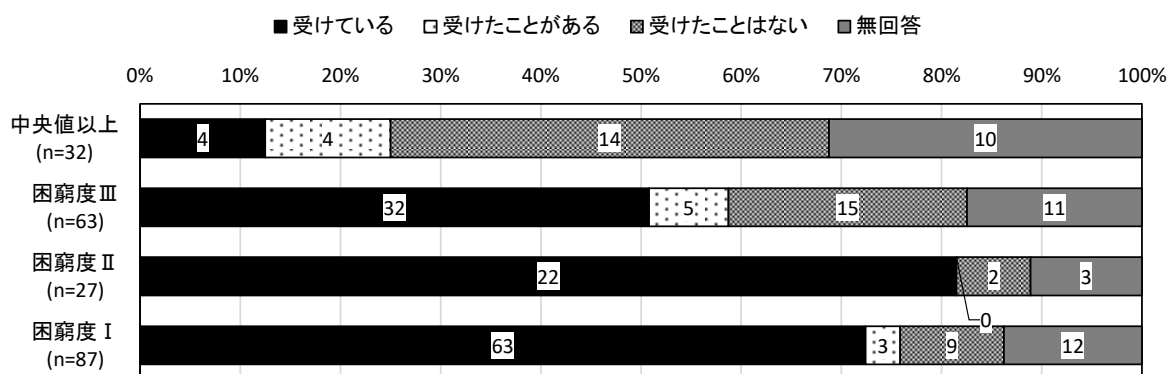
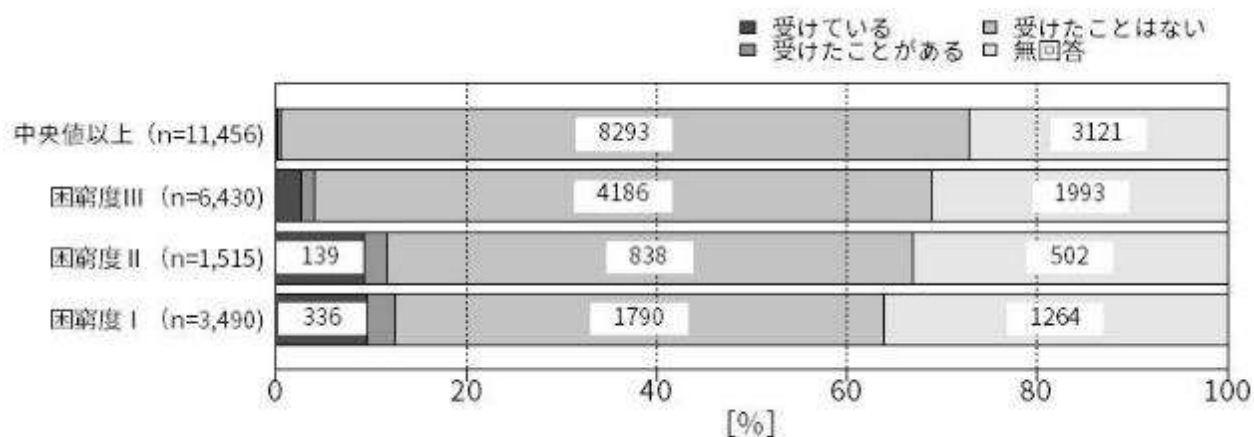


図 127 の補足図. 困窮度別に見た、児童扶養手当（ひとり親）

困窮度別に見た、生活保護（保護者票 問 30(3)⑤)

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

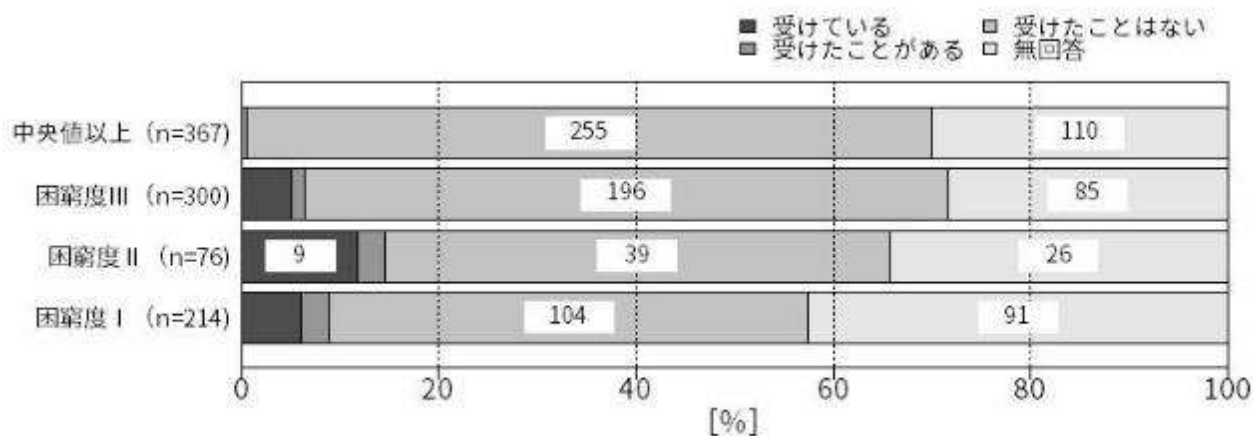


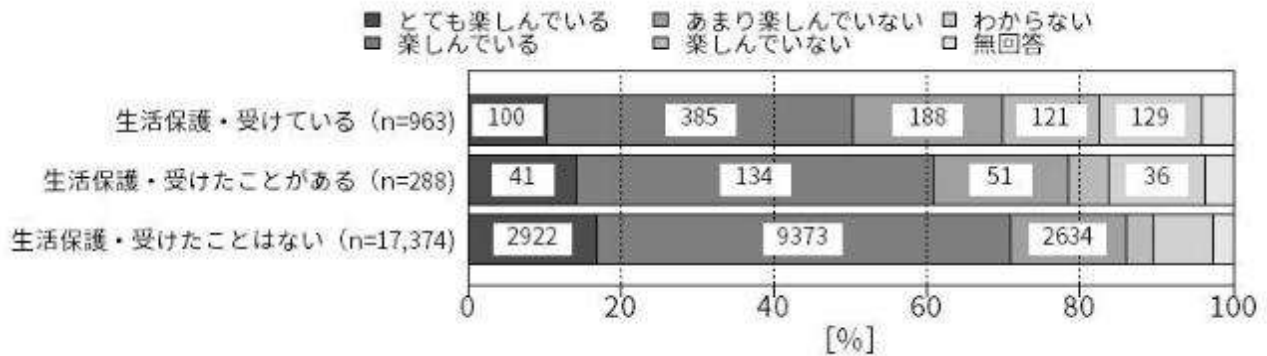
図 128. 困窮度別に見た、生活保護

困窮度別に生活保護の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は6.1%であった。困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

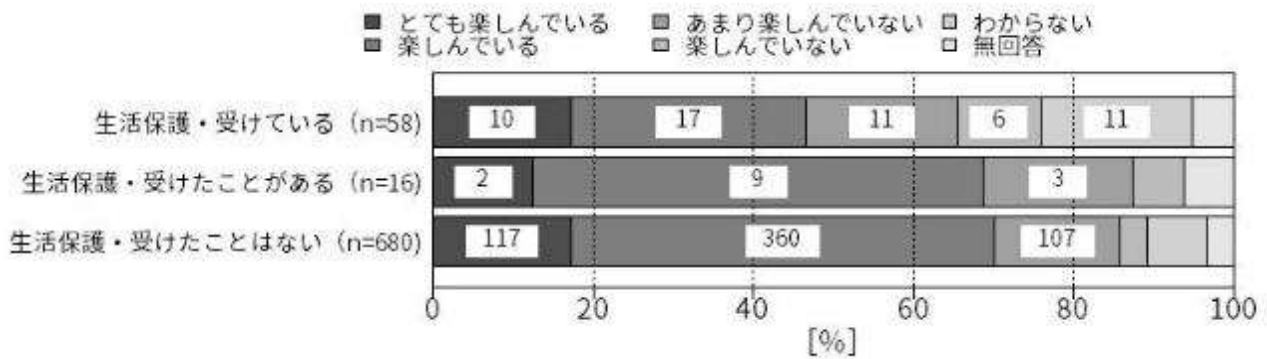


図 129. 生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

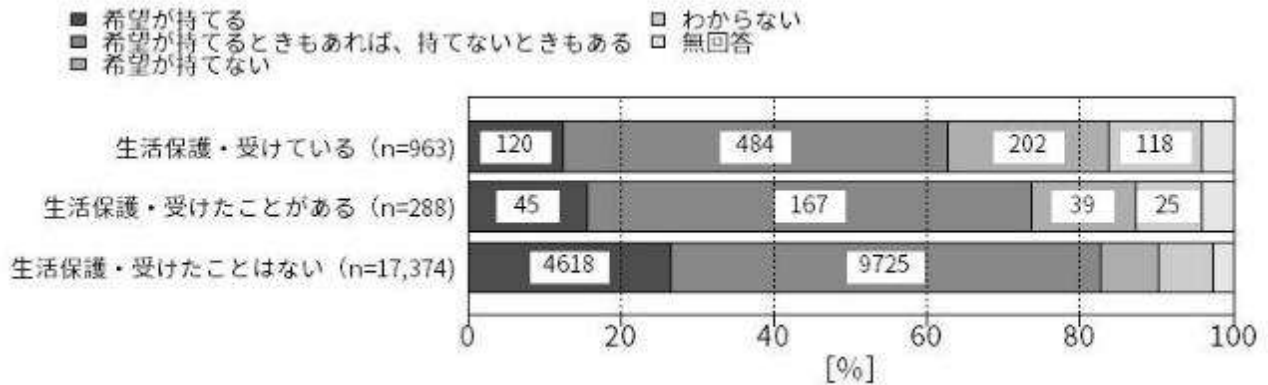
生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、生活を「楽しんでいる」という回答が 10.3%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 3.2%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

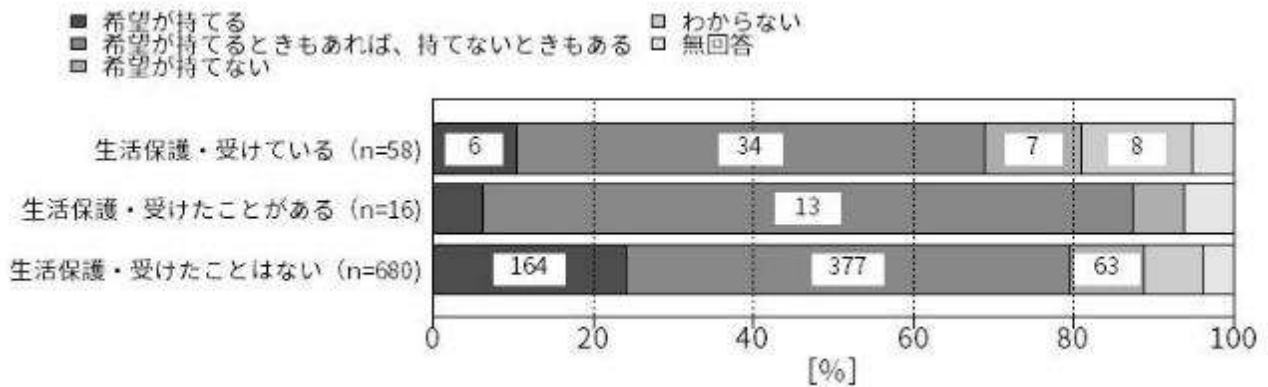


図 130. 生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

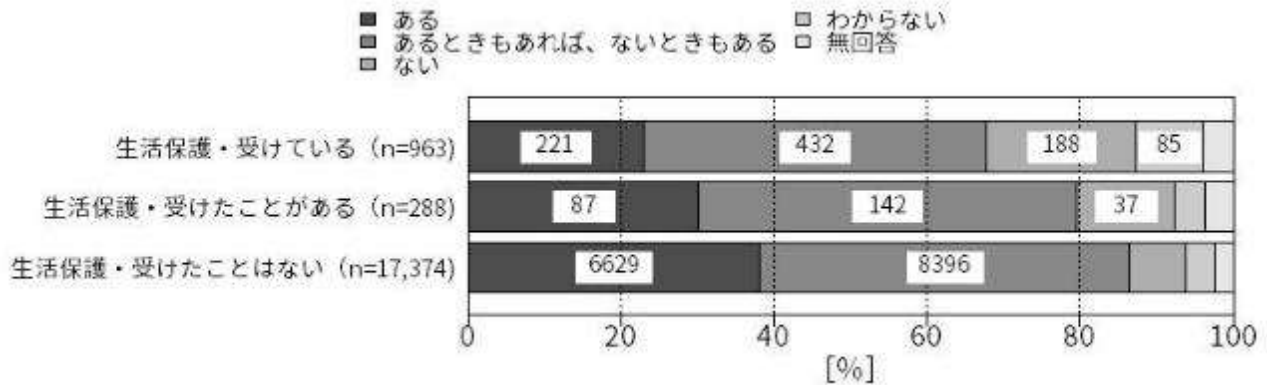
生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、将来に対して「希望が持てる」という回答が 10.3%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 24.1%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

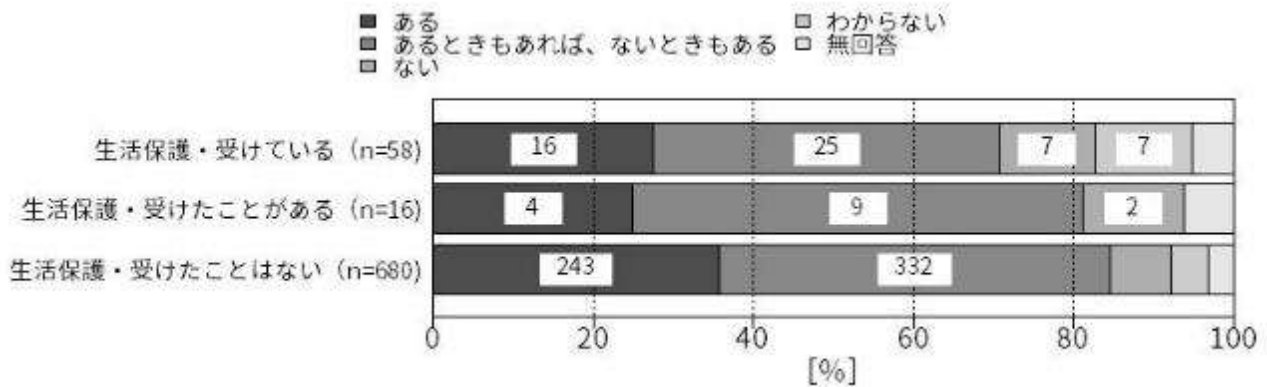


図 131. 生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

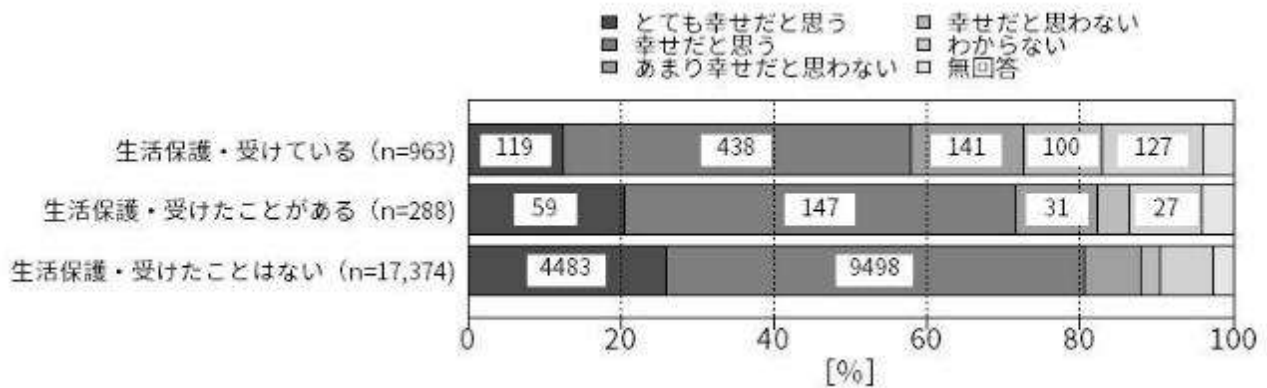
生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、ストレスを発散できるものが「ない」という回答が 12.1%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 7.6%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

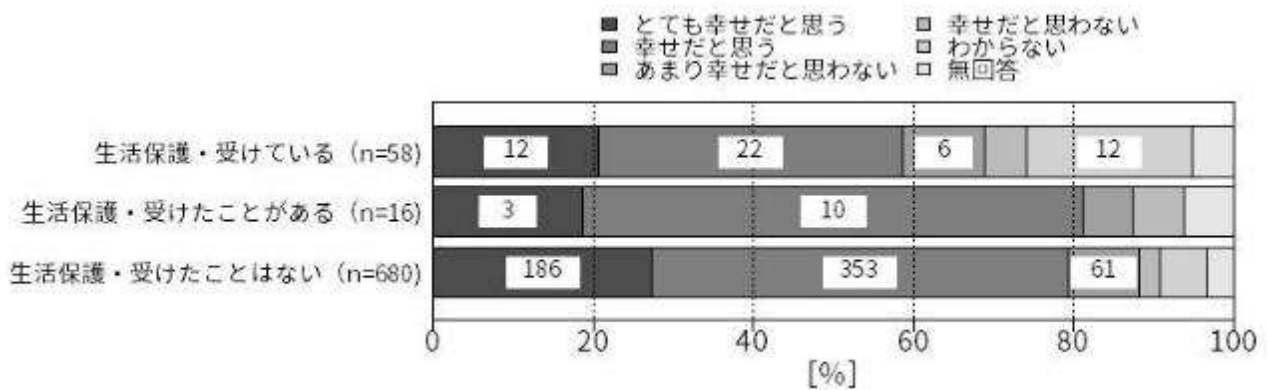


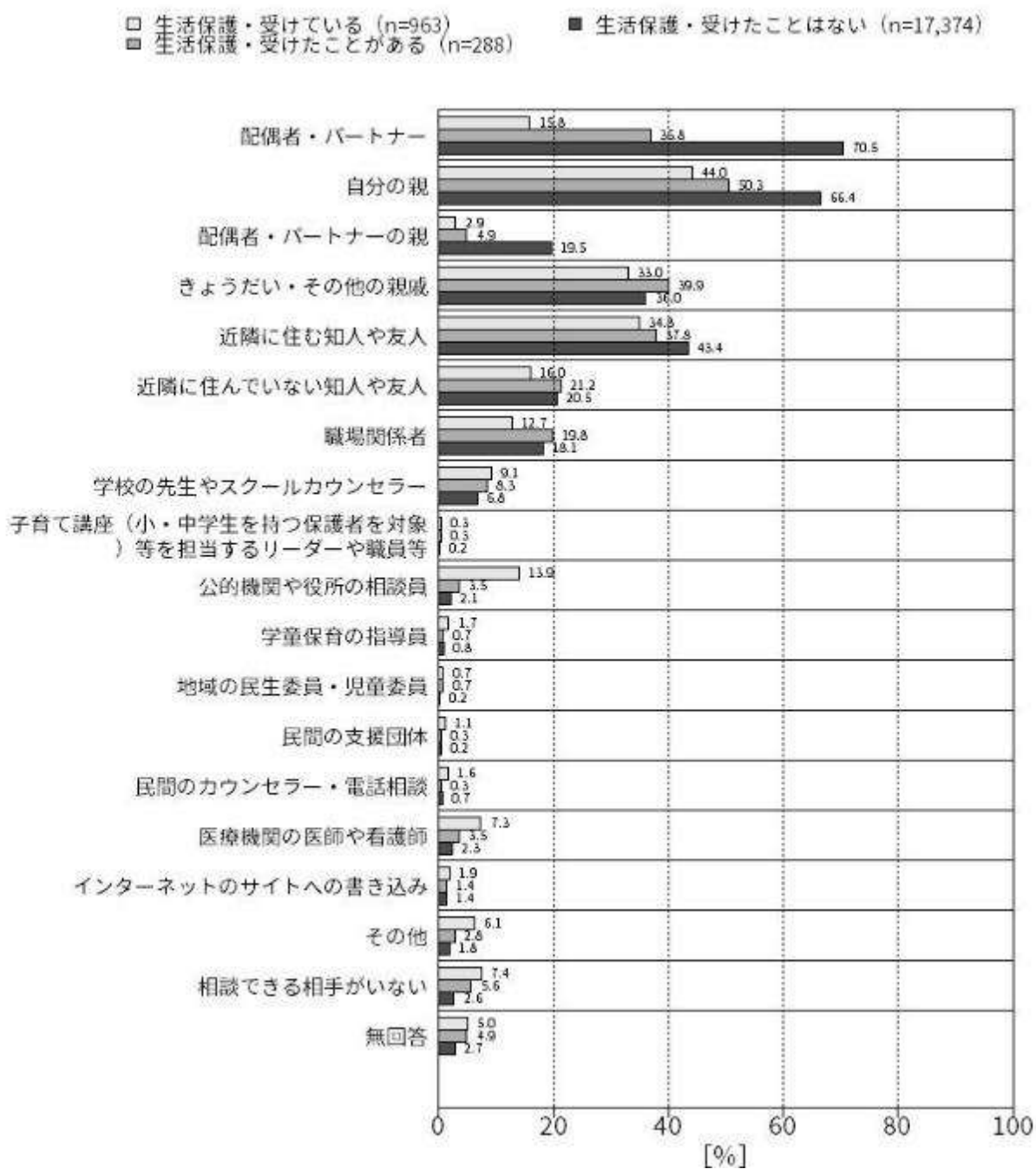
図 132. 生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、「とても幸せだと思う」「幸せだと思う」という回答が合計 58.6% に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 79.3% であった。

生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 24)

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

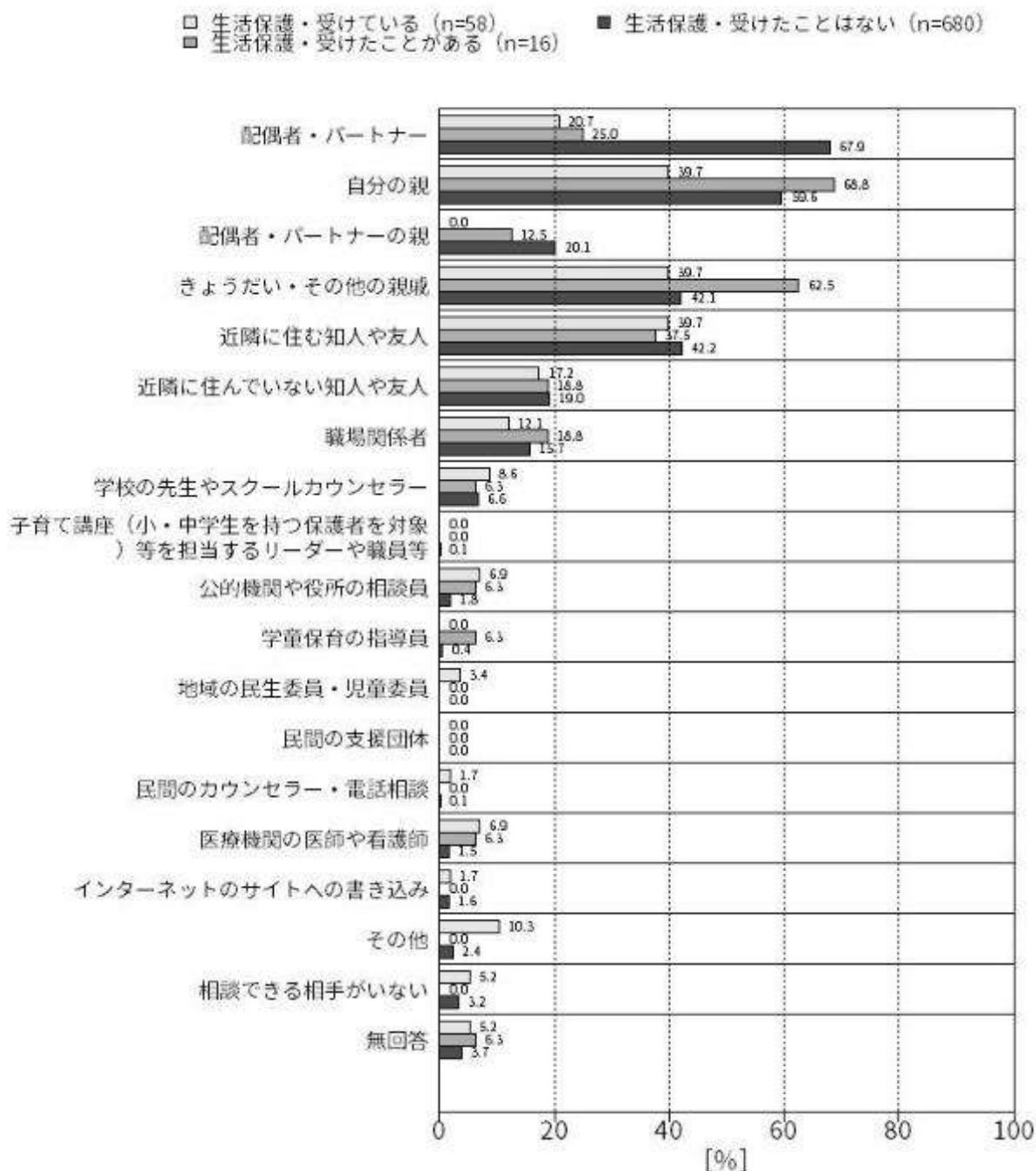


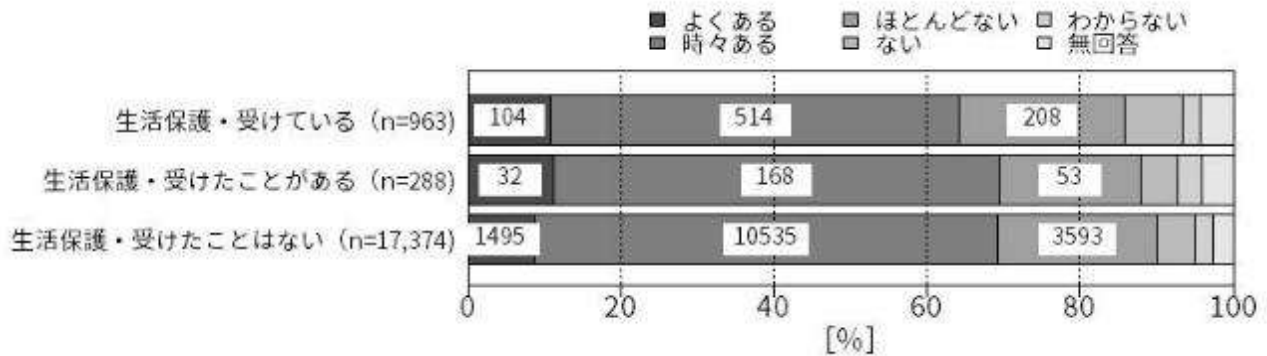
図 133. 生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先

生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、「相談できる相手がいない」という回答が 5.2%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 3.2%であった。また、生活保護を受けている世帯では、「地域の民生委員・児童委員」という回答も多かった。

生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
(保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 27)

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

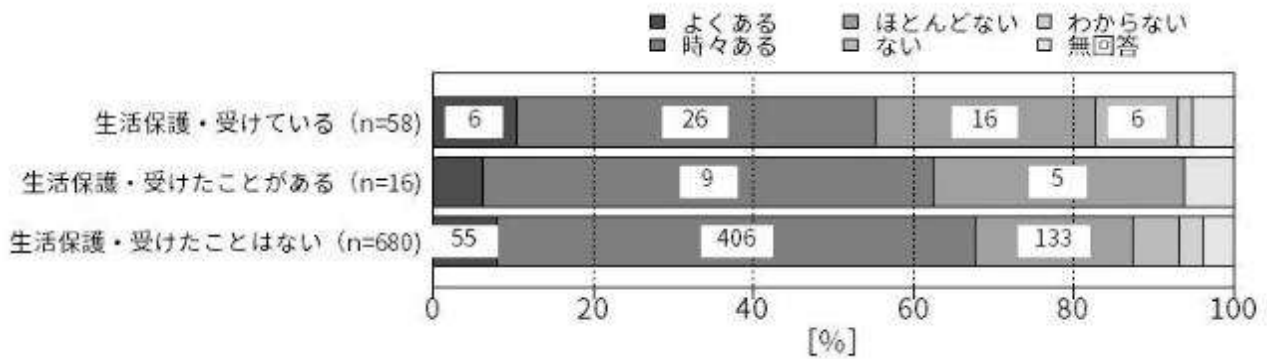


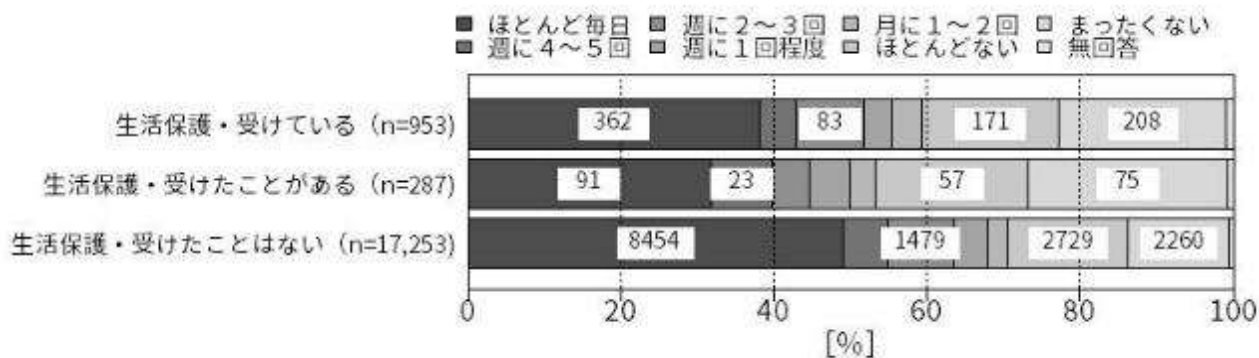
図 134. 生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「よくある」と回答した人が 10.3%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 8.1%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10①）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

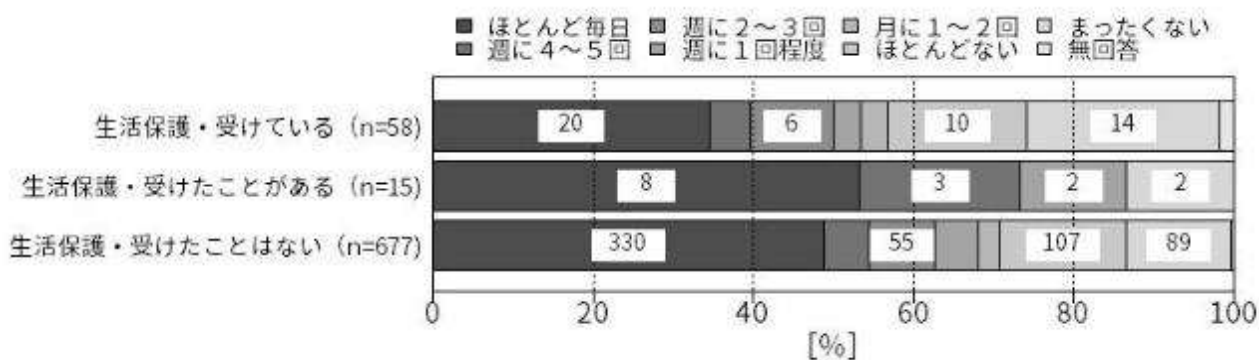


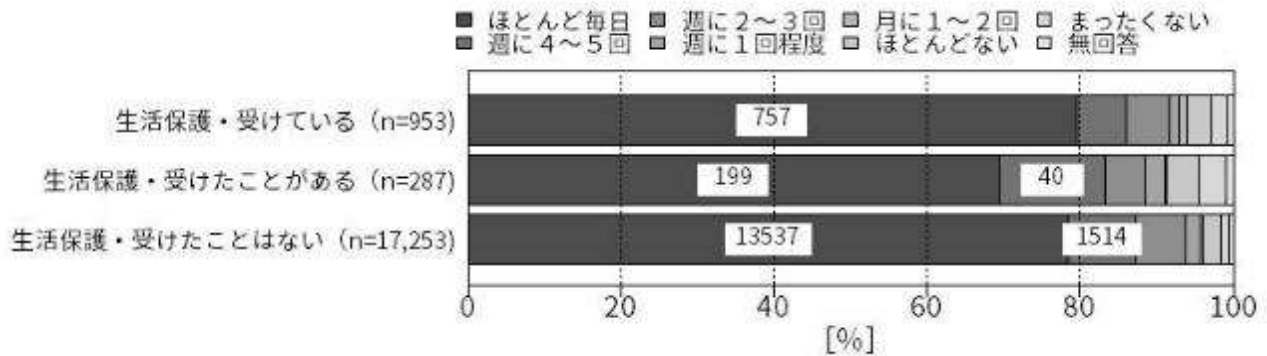
図 135. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
 （おうちの大人と朝食を食べるか）

生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べることが「ほとんど毎日」と回答した子どもが 34.5%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 48.7%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10②）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

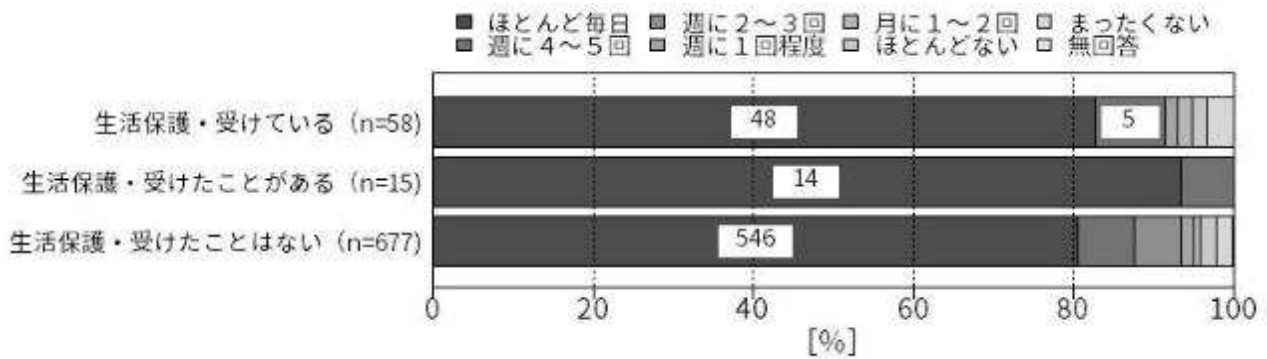


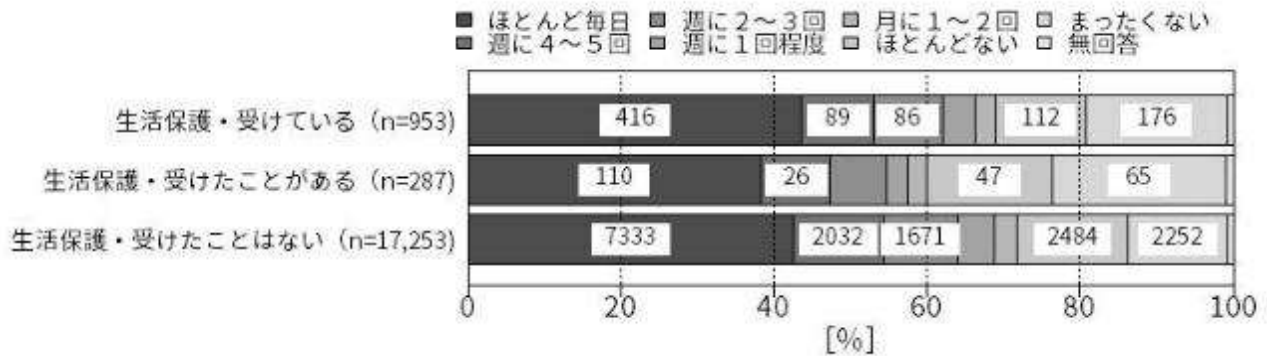
図 136. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
 （おうちの大人と夕食を食べるか）

生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べることが「まったくない」と回答した子どもが 3.4%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 1.9%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に朝、起こされるか）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10③）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

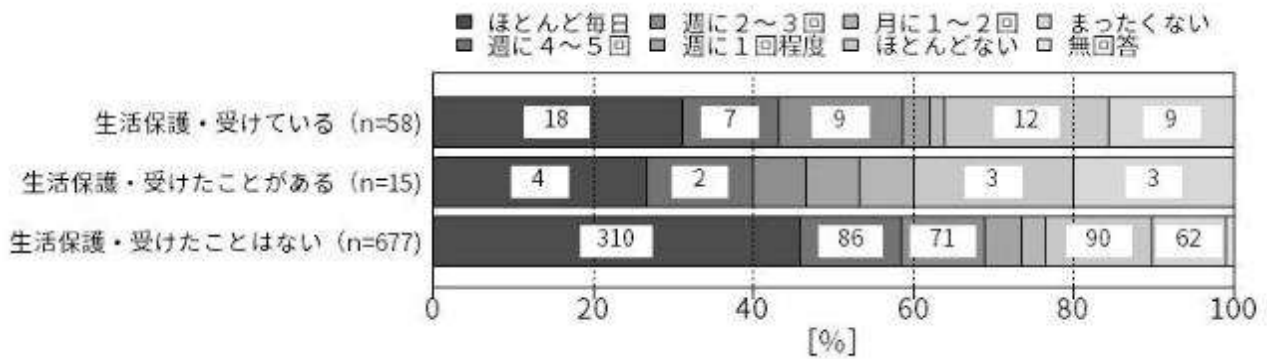


図 137. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
 （おうちの大人に朝、起こされるか）

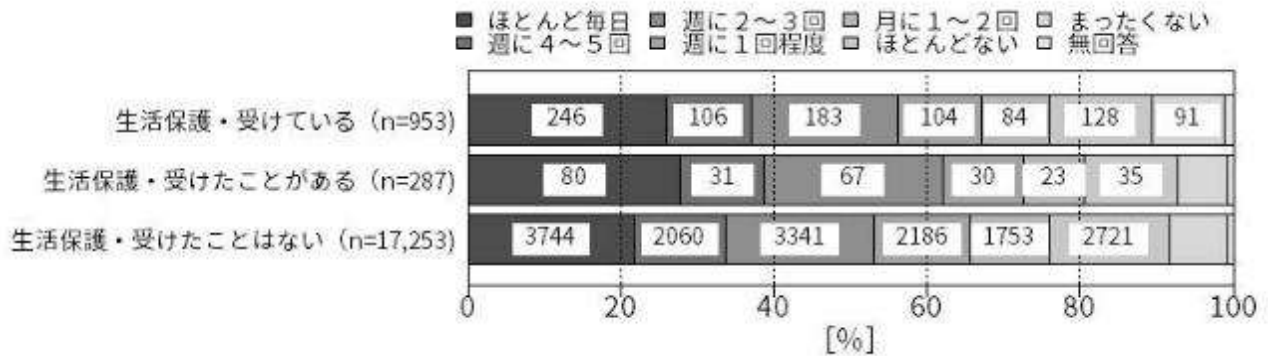
生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人に朝起こされることが「ほとんど毎日」と回答した子どもが 31.0%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 45.8%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10④）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

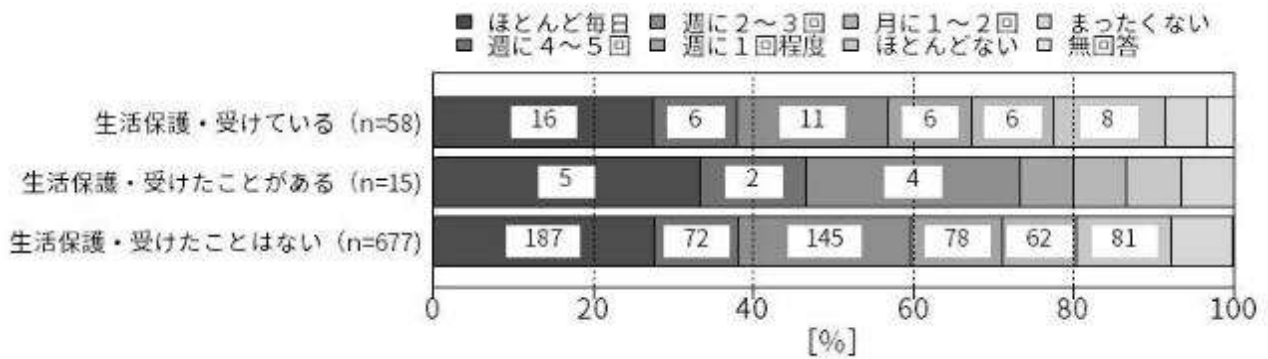


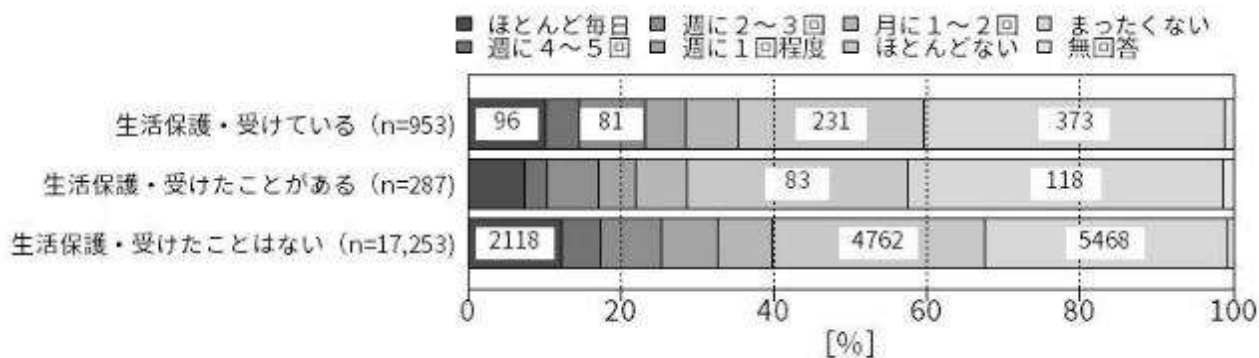
図 138. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（家の手伝いをするか）

生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けているかどうかによって、おうちの手伝いをするに大きな差は見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑤）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

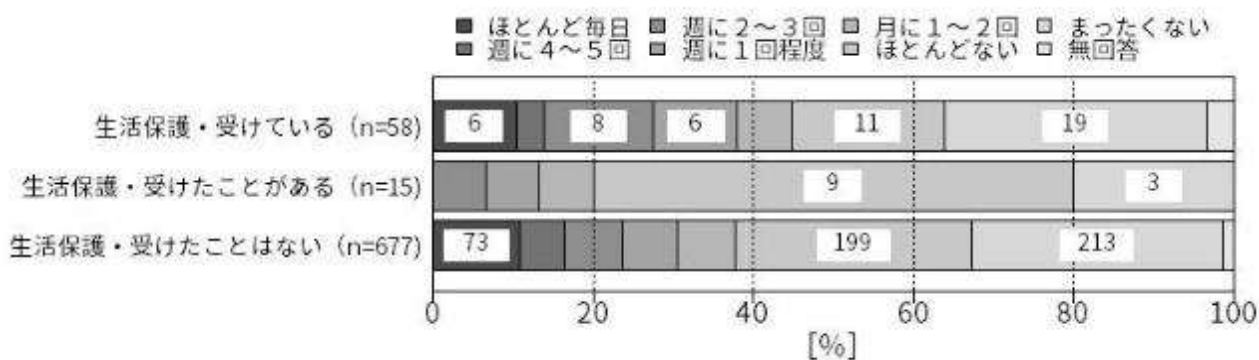


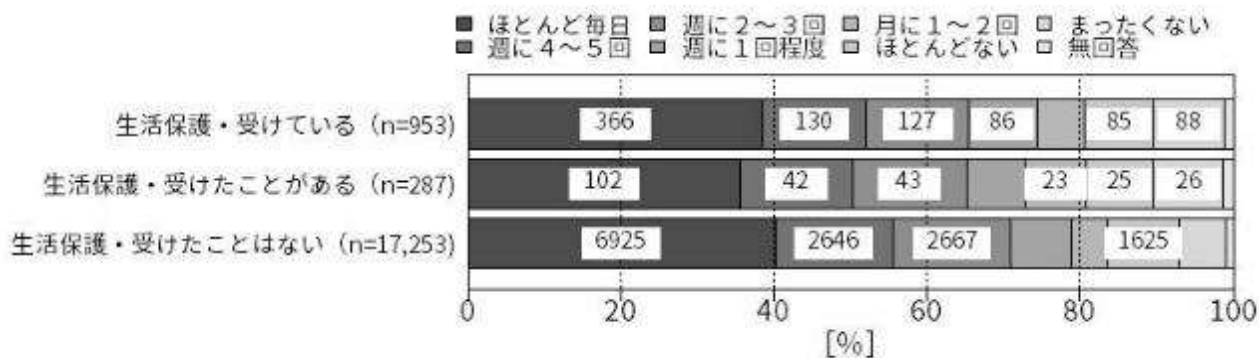
図 139. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうことが「ほとんどない」と回答した子どもが 19.0%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 29.4%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑥）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

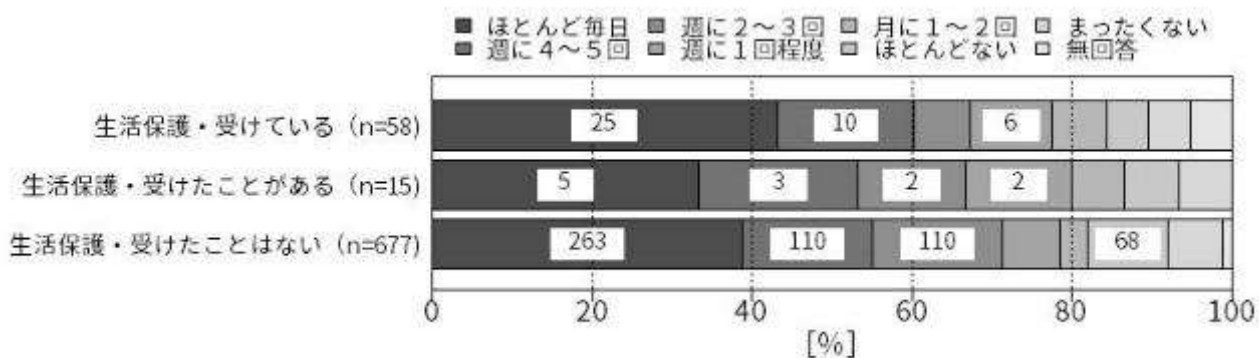


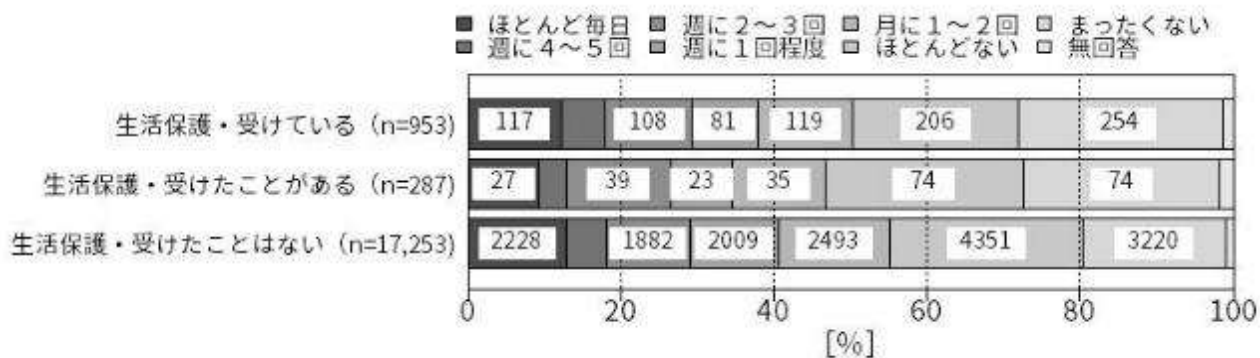
図 140. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
 （おうちの大人と学校の話をするか）

生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すことが「ほとんど毎日」と回答した子どもが 43.1%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 38.8%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑦）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

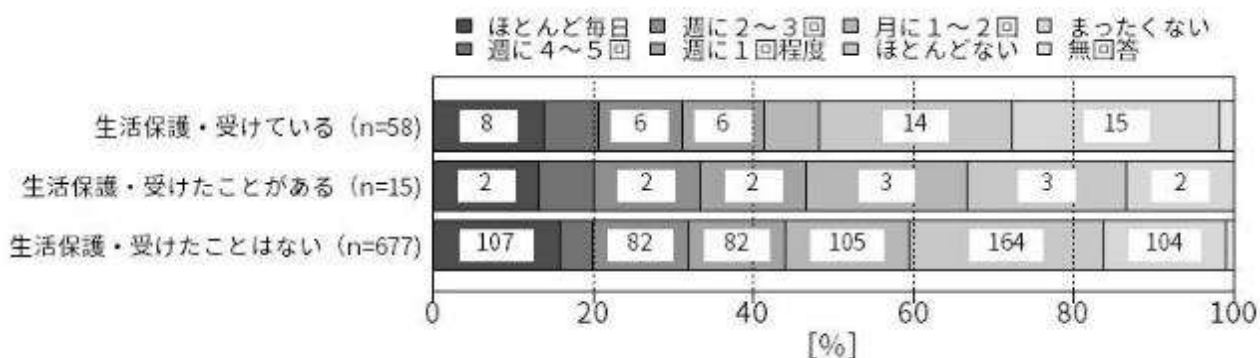


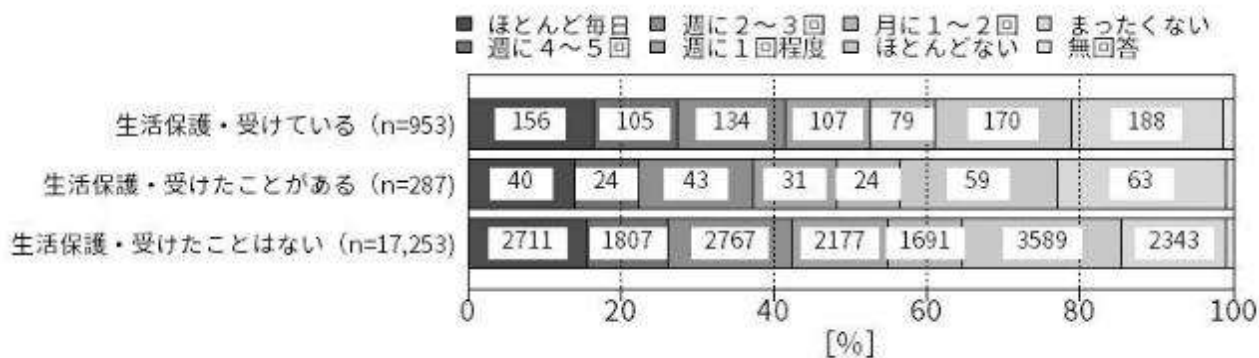
図 141. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）

生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりすることが「まったくない」と回答した子どもが 25.9%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 15.4%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑧）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

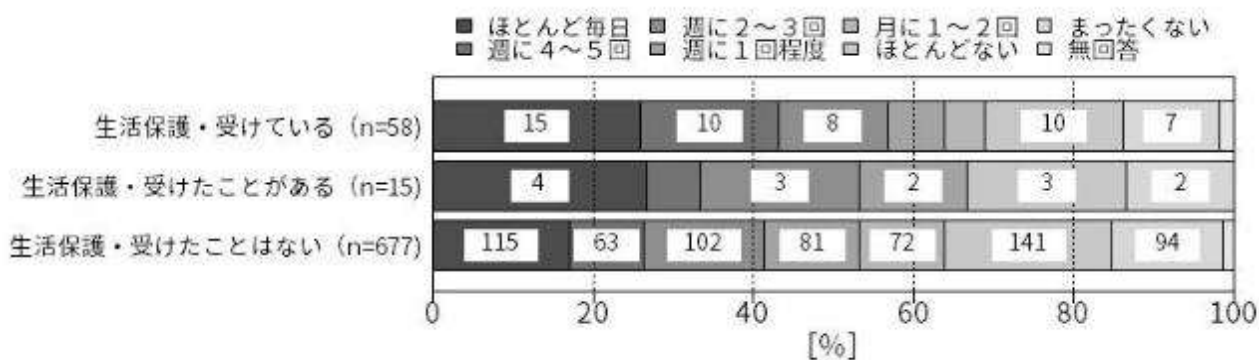


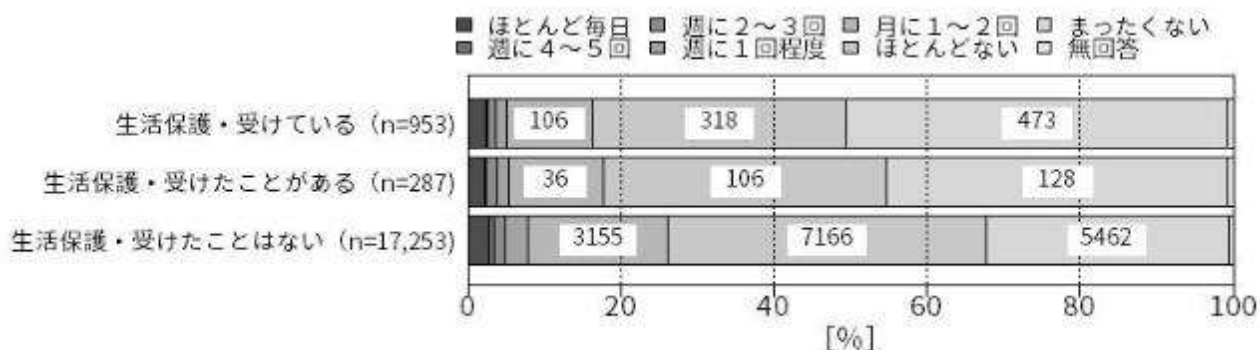
図 142. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と社会のできごとを話すか）

生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話し合うことが「ほとんど毎日」と回答した子どもが 25.9%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 17.0%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑨）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

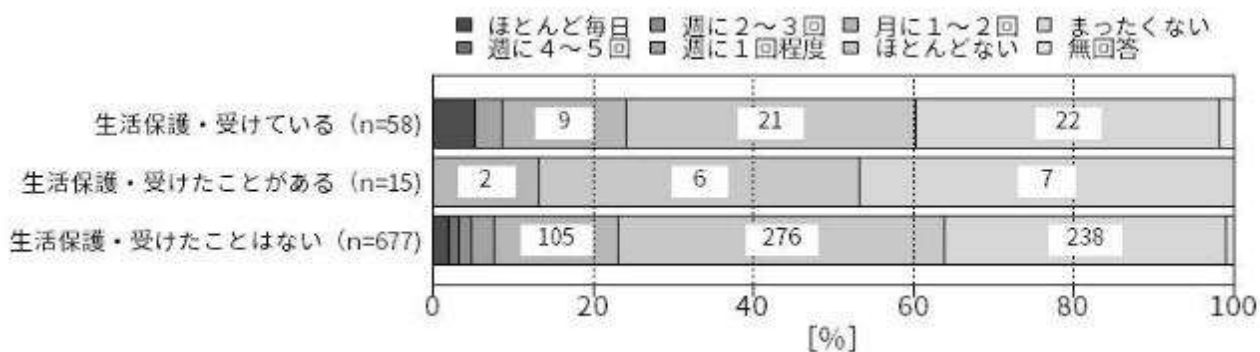


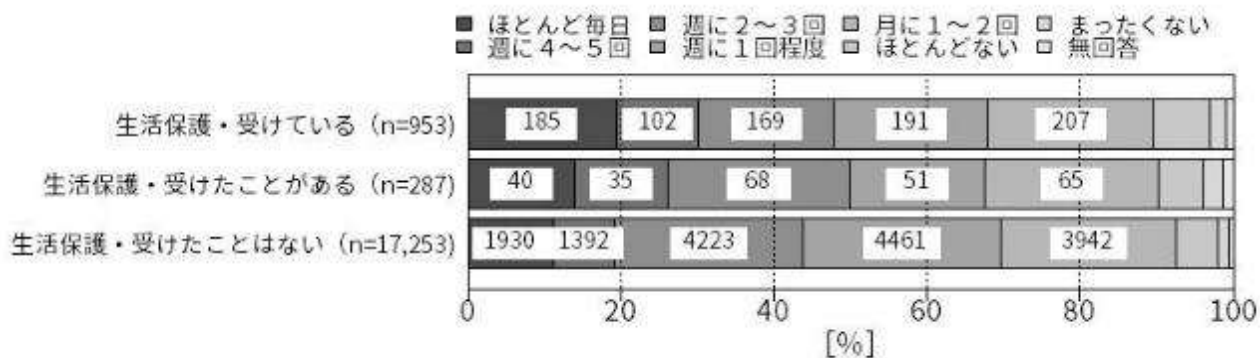
図 143. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と文化活動をするか）

生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けているかどうかによって、おうちの大人の人と文化活動することに大きな差は見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑩）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

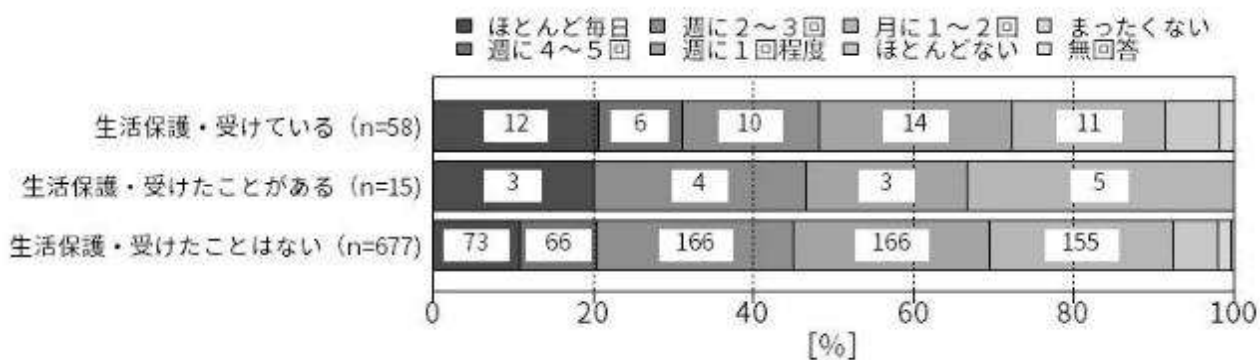


図 144. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と一緒に外出するか）

生活保護を受けたことがある世帯は数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けているかどうかによって、おうちの大人の人と一緒に外出することに大きな差は見られなかった。